

平成30年度 行政評価事業別シート

	実計対象 ■	評価対象 ■	新規 □	完了事業 □	ゼロ予算事業 □	担当者	西條 圭
	全体計画			経費区分	実施計画事業費	内線	3415
事務事業名	4160 鳥獣被害防止対策事業						
所 属	150100 産業振興部・農林課						
施 策	05012100 農業の活性化						
予算科目	会計	01 一般会計					
	科目	060103 農林水産業費・農業費・農業振興費					
	事業	020000 鳥獣被害防止対策事業					
事業目的				事業概要・効果			
地域、集落の現状と出没鳥獣の全体を把握し、最も有効な手立て（電気柵、わな、檻、緩衝帯整備など）を検討し、鳥獣被害を最小限に留め、農業者の営農意欲の持続に勤める。				<ul style="list-style-type: none"> ・サル・イノシシ用の電気柵・防護柵購入 ・緩衝帯整備に関する事業 ・有害鳥獣駆除業務 			

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
電気柵2.6km 緩衝帯整備3.9ha	電気柵2.1km 緩衝帯整備1.4ha
平成29年度 実績	平成30年度 予定
電気柵 0.28km 緩衝帯整備 0.18ha	電気柵 1.00km 緩衝帯整備 1.0ha
平成31年度 予定	平成32年度 予定
電気柵 1.5km 緩衝帯整備 1.5ha	電気柵 1.3km 緩衝帯整備 1.3ha

指標名	無し					
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成29年度 決 算	平成30年度 予 算
事業費		8,934	20,080
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	610	3,501
	地方債	0	0
	その他	1,118	380
一般財源		7,206	16,199
人員数(人)	正規職員	1.0	1.0
	嘱託職員	0.1	0.1
	臨時職員	1.0	2.0
人員コスト	正規職員	7,149.0	7,149.0
	嘱託職員	276.6	276.6
	臨時職員	1,179.0	2,358.0
	計	8,604.6	9,783.6
市民一人当たりの経費		0.3	0.6
総額		17,538.6	29,863.6

(単位：千円)

平成29年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	2,024	有害鳥獣駆除報奨金2,024
11節 需用費	422	野ねずみ駆除実施薬剤422
13節 委託費	1,505	猟友会有害鳥獣駆除委託1,505
15節 工事請負費	489	電気柵設置工事489
19節 負担金補助及び交付金	796	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会負担金714 狩猟免許取得奨励補助金・猟友会補助金82
その他	3,698	電気柵材料費2,140 ほか

(単位：千円)

平成30年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	4,500	有害鳥獣駆除報奨金1,450ほか
11節 需用費	432	野ねずみ駆除実施薬剤432
13節 委託費	1,600	猟友会有害鳥獣駆除委託1,600
15節 工事請負費	1,700	電気柵設置工事1,700
19節 負担金補助及び交付金	2,629	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会負担金2,480 狩猟免許取得奨励補助金99、猟友会補助金50
その他	9,219	電気柵材料費9,219

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	必要不可欠
評価コメント	各町ごとに電気柵の設置を行うことで、市全体の鳥獣被害（農業被害、人的被害）を防ぐことができている。電気柵未設置地区や設置困難箇所の対策を行う必要がある。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	鳥獣の出没・被害ともに減少傾向である。電気柵では防ぎできない鳥類やサル等の対策について検討していく必要がある。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	電気柵管理において、地区によって温度差があり、管理の行き届かない地区への働きかけを今後する必要がある。捕獲の補助を行う地区もあることから、モデル地区として広めていくことが重要と考える。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

鳥獣被害については減少傾向であるが、鳥類やサル等の被害対策について考えていく必要がある。また、高齢化による捕獲の担い手の減少（猟友会）や電気柵の管理体制について早急に対応していく必要がある。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>地元管理による電気柵での被害防止を継続する。獣の侵入被害対策等に対し、引き続き猟友会の協力をお願いしていく。</p>		<p>鳥獣被害の防止には電気柵の設置と猟友会の活動が必要である。地元の対策協議会及び猟友会と連携し、電気柵の設置や維持管理、猟友会による駆除等を継続する。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	